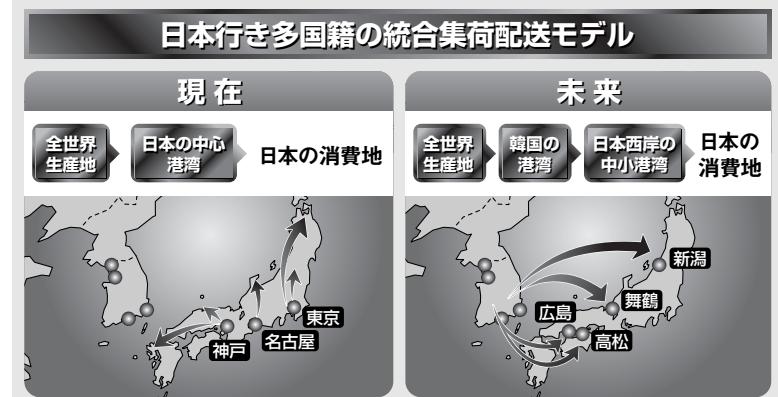


# —北東アジア経済圏における物流戦略の再構築—

## 緊密化を支える ティックスの構築へ



関係から競争と協力をを行う関係、誘致と争奪から役割分担へ、独自生存から相互共存の関係へパラダイムの転換が求められている。三国間が協力

### パネルディスカッション

#### 北東アジア経済圏における物流革命

**魚** 北東アジアにおいて新たな物流協力のための日中韓統合物流モデル①が進展している。現在進行中のモデルは三つある。①日本行き多国籍の統合集荷配送モデル②Sea & RailあるいはSea & Airの複合運送モデル③北東アジアの非鉄金属配送モデルだ。どのモデルも北東アジアを一つの市場ととらえ、中央に位置する韓国を拠点に、物流コストの削減や環境問題に貢献できるといったメリットがある。企業が多數進出してきており、日韓両国ともに研究開発がなされている。今後、アジアに散在する生産基地の効率化と在庫管理や衛生管理といった課題に応えていくためのも

大韓民国 海洋水産部  
東北亞企画団誘致チーフ  
ウオ ジエヒヨク  
**魚 在研氏**

本韓国 海洋水産部  
東北亞企画団誘致チーフ  
ウオ ジエヒヨク  
**魚 在研氏**

三井物産戦略研究所  
社長  
**水上 博一氏**

### 情報の一元管理でロス・無駄を排除 水上 氏

需要予測をし、ストリームで在庫を減らしていくか。物流費の削減にとどまらず、経営の大額なコスト削減につながる。

三井物産戦略研究所  
社長  
**水上 博一氏**

ジメント)によって、リードタイムや在庫の削減、廃棄や引きなど無駄なロスを省いていことができる。

**小林** アジア経済が目覚ましく発展する中、当社では十二月にコンテナを利用した海外との一貫輸送を開始した。

三井物産では、釜山にMC C(マルチ・カントリー・コンソリデーション)というセントラルを作り、複数の産地からの荷物を集中させ、組み合わせてから日本へと輸出する。コンテナで、日本各地から海

功。例えば、上海スパークスプレス号による一貫輸送サービスでは、速度、定時性、フレックエンシティの面で優れ輸送が可能となり、高い評価を得ている。独自に開発したフルトラックを利用すれば、十二月にコンテナ船への積み

山や光陽港などに集約して日本各地へ輸送すれば、効率的に輸送コストを削減できる。

本各地へ輸送すれば、効率的に輸送コストを削減できる。

多くの組み合せは環境面から評価されている。

—北東アジアの中央において、ハブ的功能を強化する韓国は物流関係者の大きな注目を集めている。

韓国的位置付けや活用法を

### 来賓あいさつ



大韓民国海洋水産部長官  
**吳 巨敦氏**

北東アジア地域における経済統合への動きの中で、日中韓三国の物流協力体制の構築が急務だ。

物流は、現在の競争の

関係から競争と協力を

行う関係、誘致と争奪から役割分担へ、独自生存から相

互共存の関係へパラダイムの転換が求められている。三国間が協力

するだけでなく、高度に発達した

フューラー(支線)ネットワー

クを備えている。これを日本が活

用できれば、全世界で生産された貨物を韓国で集約して日本各地へ

配送できる。このモデルで、ある

日本の多国籍タイヤ会社の年間物

流コストを試算したところ、一

二・四%削減できた。

さらに私たちちは「日中韓国際物

流共同協議体」の設置を提案した

。政府と民間が一堂に集

まり、物流にかかる幅広い問題を議論し、情報交換できる

場だ。物流での協力により、北東

アジアが共同繁栄できる時代へと

確実な一步を踏み出したい。

二・四%削減できた。

さらに私たちちは「日中韓国際物

流共同協議体」の設置を提案した

。政府と民間が一堂に集

まり、物流にかかる幅広い問題を議論し、情報交換できる</p